

平成22年度事業評価シート(ソフト事業)

1 事業名等(Plan 1)

事業名	木質バイオマス活用促進事業						
所属名	農政部	林務課	林業振興グループ				
第七次総合計画	政策 3 「すみよさ」のあるまちをめざして	分野 6 環境・衛生	基本施策 1 快適に暮らせる環境を整備する	施策 2 地球環境への負荷の低減			
予算科目	2	1	18	環境政策	費 21810	木質バイオマス活用促進	事業
					費		事業
					費		事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山市木質バイオマス活用促進事業補助金交付要綱・高山市地球温暖化対策地域推進計画・高山市バイオマスタウン構想						
事業の実施主体	○ 市		市以外→				
事業の実施方法	直営		指定管理	業務委託	団体等補助	○ その他→	

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民、町内会等団体、市内事業所	受益者数	- 人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	地球温暖化対策の一環として、化石燃料の代替となる新エネルギーとして、再生可能な生物由来の有機性資源である木質バイオマスの普及を積極的に支援することによって、市民の環境意識を高揚を図り、日本一の森林都市 飛騨高山にふさわしい低炭素型社会を構築する。		
概要	事業の実施手法、手順	① ペレットストーブ・薪ストーブの本体購入経費の1/3以内を助成(上限 100,000円) ② ペレットボイラーの本体購入費の1/3以内を助成(上限 300,000円) ③ ペレット燃料の購入経費を助成(ストーブ用 10kgあたり100円 上限10,000円、ボイラー用 100kgあたり1000円 上限 100,000円)		
概要	事業始期・終期	始期: 21 年度から	終期: 年度まで	設定なし
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 ① 補助メニューにペレットボイラーを追加、ボイラー用ペレット燃料にも助成。 ② 補助対象経費を購入設置に要する経費から本体購入費のみに縮小、対象者に市内事業所を追加 ③ 購入先に関する条件に市内の事業所又は、代理店を有する者から購入を追加			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)				20,000	20,000	20,000	
総合計画計画額(計画額)			7,000	20,000	20,000	20,000	
財源	事業費		11,020	20,000			
	(計画・予算・見込・決算額)		11,020				
	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額			9,000		
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
繰入	予算額						
	決算・見込						
一般財源	予算額	0	11,020	11,000			
	決算・見込	0	11,020				
H17国勢調査 96,231 人 32,174 世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	-	-			
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	0	115			
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	0	343			
指標	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
指標	! その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)						

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	ペレットストーブ等導入台数	資料・出展	高山市地球温暖化対策地域推進計画	算出式	計画数量 / 5年	単位	台	活動の方向
成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標	指標名	ペレットストーブ等の導入による二酸化炭素の削減量	資料・出展	高山市地球温暖化対策地域推進計画	算出式	計画数量 / 5年	単位	ト	成果の方向

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)	(現状及び判定理由)	日本一の森林面積を誇る高山市が、低炭素型社会の実現に向けて、森林資源を有効活用した木質バイオマス(木質ペレット)を積極的に推進することは、目的が明確であり、大いに評価ができる。他都市からも注目されている制度であり、今後も継続して実施する必要がある。	A:非常に高い B:高い C:低い D:非常に低い	目的評価 A
	②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)	該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)	減少 維持 増加 1	項目 ②コスト面 ③成果面 拡大 ○ 維持 減少
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)	該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)	拡大 1 維持 減少	コスト・成果ポジション C 第3水準	
(判定理由)	平成21年度に制度が創設され、平成22年度より、ペレットボイラーの購入経費、ペレットボイラー用燃料の助成を追加したため、事業費が増加している。	(判定理由)	平成22年度は、ペレットボイラーを新規で対象となったため、平成21年度のペレットストーブ、薪ストーブに加えて、ペレットボイラーの購入が見込まれる。ペレットボイラーの普及によって、二酸化炭素の削減に繋がる。	

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

現在、ペレットストーブ、薪ストーブ、ペレットボイラー、ペレット燃料の購入を助成している。この事業は、創設されて2年目と歴史が浅く、手探りな部分が多い。平成23年度予算要求では、平成21年度実績と平成22年度見込みを十分に分析し、補助メニュー及び事業費の見直しが必要である。

5 今後の方向性(Action)

評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了 ■
活動の方針	木質バイオマスを普及し、森林都市 飛騨高山らしい低炭素型社会を実現するためには、飛騨高山産のペレットの安定供給、低コスト化が必要不可欠である。木質バイオマス活用促進事業の普及と同時に、木質ペレットの原料となる間伐材が山から搬出されるような仕組みづくりが必要となる。
次年度の実施方針	次年度は、木質バイオマス活用促進事業の普及が見込まれ、ペレットストーブ、薪ストーブ、ペレットボイラーの需要の更なる増加が見込まれる。課題となっている木質ペレットの安定供給に向けて、間伐材利用促進事業の周知、補助制度の見直しや林地残材の活用積極的に取り組まなければならない。

一次評価 主管課	III
判断の理由	低炭素型社会の構築や木材の利用拡大による地域活性化をすすめるために事業の継続が必要である。

総合評価	中 中 III
判断の理由等	「II」以上の水準に向けた改善が必要 化石燃料の代替エネルギーとして木質バイオマスの活用促進を図るための事業である。補助メニューの拡充を行っているものの、一層の認知度の向上が必要である。今後更なる制度周知を図り、木質バイオマスの活用を推進するとともに、市民の環境意識の高揚と地球温暖化対策に結び付けていく必要がある。